

## 「生きる力を育成する教育の創造」

### －確かな学力の定着をめざす授業づくりと集団づくりを通して－

#### I 主題設定の理由

本校では、基礎学力の定着を図るために、国語・数学・英語の基礎的な知識や技能を問う「三大会」の取組を伝統的に毎年実施しており、「家庭学習ノート」の取組も並行して行ってきた。また、各教科では「学び合いのかたち」を授業の中に効果的に取り入れ、基礎基本の定着を図りながら、「思考力・判断力・表現力」を養う授業展開の工夫を行ってきた。その結果、相手の考えや意見を理解しようとする意識が高まり、学び合いの活動に生徒自身が深まりや広がりを実感することができた。

昨年度に実施された「学力把握調査」の結果を受け、県教委では「『話すこと・聞くこと・書くこと』における記述式の問題に課題があり、早急に個に応じたきめ細かな指導や学習集団による学び直しの機会を設定すること」と分析を行っている。このことは、「言語活動の充実」を通して、「授業づくり」を進めることが必要であることを示している。また、昨年度より実施されている「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」と関連させながら、確かな学力を育むために言語活動の充実を図る「授業づくり」のポイントを明確化させることやそれにもとづく一人一実践を校内研究の一つの柱と位置づけた。さらに、Q-Uを通じてより良い学習環境を整えるために「集団づくり」のあり方の研究を行うことを考えた。Q-Uの分析や活用は、生徒や学級の状況を把握し、学びやすい学級づくり・集団づくりを考える指標とした。その上で、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターなどを学級活動に取り入れ、より良い「集団づくり」を目的として、以上のように二つの視点に的を絞って主題を設定した。

#### II 研究の内容と方法

##### 1 内容

###### (1) 授業づくり

「思考力・判断力・表現力」の向上を図るための言語活動を取り入れた、「一人一実践」。

###### (2) 集団づくり Q-Uの活用

甲州市「確かな学力」育成プロジェクトにより年2回（5月，11月）実施される、Q-Uの分析と情報交換。東山梨教協ブロック研究会との連携。

##### 2 方法

(1) 各教科ブロックで、実践内容と1年間の指導、生徒の変容についての情報交換と評価を行った。

ア 「思考力・判断力・表現力」の向上を図るための言語活動を取り入れた、「一人一実践」を行い、形態・授業の流れ、授業後の反省等を記述した「実践報告シート」を作成した。

## イ 研究授業の実践

1 学年社会科研究授業（10月）（山梨県教育庁指導主事招聘）を実施した。

ウ 学習に関する生徒アンケートを実施（事前は6月，事後は1月）した。

（2）全体でQ-Uについての情報交換と評価（取り組みの成果と課題）を行う。

2回の結果について各学年ブロックで分析し，手立てについて検討した（8月，1月）。また，各学年ブロックで検討した内容を全体で情報交換した。

## Ⅲ 成果と課題

### 1 成果

（1）「思考力・判断力・表現力」を向上させるために，言語活動の充実を図った授業づくりを「一人一実践」で取り組むことができた。また，県の指導主事を招聘しての研究授業により，言語活動についての基本的な考え方や実践例を学んだ。

（2）学校評価の保護者アンケートによれば，「子どもの読む力，書く力，計算力をしっかり身に付けている」の項目が58%から64%に6ポイント，「子どもは家庭で毎日勉強している」の項目が66%から68%に2ポイント上がっている。生徒自身も「学校からの課題等にしっかり取り組み，毎日家庭学習するように頑張っている」の項目が，71%から87%と16ポイントあがっている。「先生はいつも進路についての適切なアドバイスをしてくる」の項目も75%から83%と8ポイントもあがっている。これらより，「授業づくり・授業改善」という観点では成果が感じられる。

（3）各学年ともQ-U分析において学級生活満足群に位置している生徒の割合が第1回，第2回ともに同じ割合で推移してきた。Q-U分析を学校全体できめ細く情報交換できたことは有意義であった。

### 2 課題

生徒の事前・事後アンケートの結果によれば，「意見交換や発表の場面で，自分の意見や考えを伝えることができている」の項目について74%から69%に5ポイント下がっている。また，「自分の考えや感じたことを，理由を明らかにして表現したり伝えたりしている」の項目についても，78%から73%に5ポイント下がった。さらに，「自分の考えを記述で（文を書いて）表現することができる」の項目も81%から72%と9ポイント下がっている。これらのことから，生徒の意識としては，「自分の考えを，理由を明らかにして口頭や文章で表現することに難しさを感じている」と考察できる。今後は，言語活動の充実を図るポイントを本校生徒の実態を見ながら，練り直すことが急務であり，校内研究の取り組みの仕組みや研究組織の在り方を見直す必要があると考える。

## Ⅳ 成果物

1 一人一実践「実践報告シート」

2 第1学年社会科学学習指導案・ワークシート

（研究主任 武藤英紀）